



慎一



義崇

あらすじ

モテ男の慎一とはこの「タカくん」と義崇が再会してから半年、なにかと世話を焼いているうちに、慎一は義崇のことを「は」としてではなく「男」として好きであることを自覚する。穏やかな同居生活が続く一方で、全く手を出してこない義崇にしびれを切らす慎一。このまま想いが報われないことに胸がしめつけられ……

し……

ア……

ぽ

……死ぬかも

るっ

月が変わり
確定した店長昇格と
異動の準備で
俺の日常はにわか
慌ただしくなった

残務処理に
本社との打ち合わせで
毎日午前様状態

そんな怒涛の18連勤を
乗り越えてもぎ取った
三連休だが……

あ……
シートだ
替えてねえや

掃除と洗濯が最優先事項で
遊びに繰り出す気力も
予定もない



よしなが
義宗……
なにしてんのかな



俺が忙しくなると
ほぼ同時に

うるさいほどに
纏りついてきた義宗も
ぱったりと部屋に
訪れなくなっていた

そもそも入学して
すぐって履修だ
新歓コンパだつて
結構忙しいはずだよな



うちにこまめに
通ってきてた方が
おかしいんじゃない！



静かだな……

あいつがいないと

こっちの都合も
お構いなしで
押しかけてくる
甘ったれの
はこの存在が

ひどく心地いいと
気づいたのは
いつだったろう



おかえり
慎ちゃん!



……わりい、今日は
疲れてるから
勝手にやっつて

おまえ
かまってる
余裕ない……



ね、慎ちゃん
ファミレス行かない？

ああ？
この夜中にかよ

だって新作のメニュー
入ったらしいんだよ
食べたいな

えー、やだよ

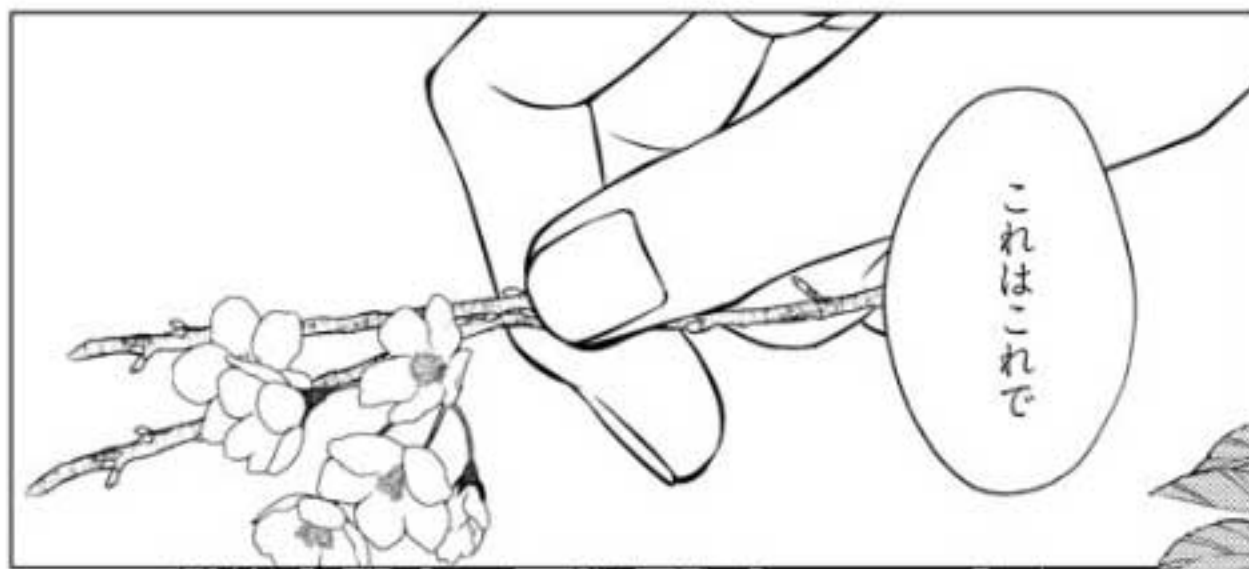
つうか、俺
勝手にしとけって
言ったよな？

ついでに
散歩しようよ



青っぽい匂いがする

——あー
もう葉桜だね



これはこれで



いい感じだ



ごつい
思い出になりそつな
ごとすんなよ

きれいな分だけ
あとがきついんだ



ね、じゃねえよ
疲れてるっ
つってんのに



ね？



特別な記憶なんて
欲しくなかった

夜桜を見るたびに
この夜のことを
思い出してはきつと
苦しくなるだろう









義崇のにおい……

あの結婚式の日



義崇……

はじめてあいつを
この部屋に入れた
ときのことば

いまもあつちあつちと
思い出せる

よし、たか
はあ